

鷹南学園



様式6	平成28年度 鷹南学園の評価・検証 結果報告	
検証項目	(1) 人間力・社会力の育成	
	○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他	
目標	①「特別の教科(道徳)」の先行実施をおこなう。 ②オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。	
取組	①各校で道徳の指導法研修会を実施し、教育活動全般で道徳教育の充実を図り、豊かな心を育成する。 オリンピック・パラリンピック教育の推進を通して、オリンピック・パラリンピックの精神を知り、本物に触れることを通して運動に対する興味関心を高めるとともに体力の向上をめざす。また、自国や他国の文化を尊重し、国際理解教育の推進を図る。	
	成果	課題と改善方策
	①2学期までに、自己申告の観察授業で全学級「特別の教科 道徳」に取り組んだ。各校の「道徳授業地区公開講座」の時にも共通のひな型での指導略案を作成し、全教員が授業実践することで研究を推進できたことが成果である。 ②昨夏のオリンピック・パラリンピックをテレビ等で見たことによって、児童にとって興味関心が高まった。各校ともパラリンピアンをゲストティーチャーとして招いて「パラアスリート交流」等を行った。道徳や総合的な時間を通して、各学年学級でオリパラ教育の実践を行うことができた。	①次年度から学園研究で「特別の教科(道徳)」の研究を推進し、道徳授業の改善に生かす。そのために、日常的に研究に取り組める条件を整備していく。 ②引き続き取り組みを継続し、一層日々の教育活動とオリパラ教育の関連を意識した取り組みを推進していくことが課題である。そのために、指導計画に合わせて、早め早めに動き、オリンピック・パラリンピアンを招いての授業を計画する。 ③都の人権教育推進校を引き受け、「人権教育」の視点からも「道徳」「オリパラ教育」に迫っていく。
検証項目	(2) 学園・学校運営について	
	○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他	
目標	①学園校長会、学園管理職会、学園幹事会を組織的・計画的に行うこと。 ②拡大幹事会を活用し、学園の教育課題に対応する。	
取組	①学園校長会を管理職会の前に実施し、会の効率化を図る。幹事会は、中学校で開催する。 ②「学力部会」「体力部会」を組織し、各担当管理職が進捗状況を管理し、指導・助言を行う。「特別な教科道徳教育」の先行実施に伴う進行管理	
	成果	課題と改善方策
	①学園校長会・管理職会・幹事会は組織的にほぼ予定通りに取り組むことができた。学園管理職会の前の時間帯に学園校長会を設定できたことで、効率的に会を運営することができた。 ②拡大幹事会では「学力部会」「体力部会」で調査等を分析し、今後の教育課程編成のための資料の作成ができた。	①幹事会と副校長会や主任会と重なり、参加できない教員がいたため、次年度は幹事会の実施日を調整する。 ②拡大幹事会では次年度も「学力部会」「体力部会」で調査等を分析し、教育課程編成や授業改善のための資料の作成を行っていく。

検証項目		(3) 小・中一貫教育校としての教育活動 ○小・中学校間相互乗り入れ授業 ○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 ○その他	
目標	①昨年度の相互乗り入れ授業の検証を受け、引き続き生徒の学力向上、教員の指導力向上につなげる。 ②学園行事の内容の精選を行い、交流活動を充実させる。		
取組	①昨年度の成果を生かし、事前の打ち合わせの時間を確保するとともに、さらに相互乗り入れ授業の指導内容に工夫を凝らし、学力向上に結びつける。 ②きょうだい学年交流を、学園公開日に合わせるなどの工夫をし、保護者・地域の方により活動を見えやすいものにする。こども熟議の結果を受け、児童会生徒会交流会の活動に「いじめ防止対策」等結び付ける。3校連絡会を設定し、小学校と中学校の生徒指導・教育支援等に関わる情報交換を行い、いじめ・不登校の減少を進める。		
成果		課題と改善方策	
①相互乗り入れのための会議を定期的実施した。 ②きょうだい学年交流は「小2-中1」「小4-中3」は、学園公開日に実施した。 子ども熟議は防災について実施した。 3校連絡会は5月に実施し、情報交換を行い、中学校の生徒指導の参考となった。		①相互乗り入れの会議は定期的実施し、引き続き「算数」「数学」の教科にしぼり、学力向上のための方策を検討する機会とする。 ②きょうだい学年交流は次年度も実施していく。「小3-中2」の交流についても学園公開日に実施する方向で計画を立てる。 子ども熟議については次年度は、2学期の学園公開日の午後実施していく。 3校連絡会は夏休みに実施し、情報の共有化を図る。	
検証項目		(4) 児童・生徒の学力・健全育成 ○児童・生徒の学習意欲 ○各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○小学校と中学校の評価の一貫性 ○不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力 ①学園研究を通して、思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善を進める。 ②基礎学力や学習習慣の定着を進める。	健全 ①「鷹南スタンダードⅡ（生活のスタンダード）」を定着させる。 ②挑戦心・やり遂げる力・協働する力を育み、いじめのない学園を作る。	
取組	学力 ①各校の実態に合わせて研究の焦点化を進め、一つの授業像を確立する。そしてこれを日々の授業実践に広げ、授業改善を進め、子どもの思考力・表現力を伸ばす。 ②東京ベーシックドリルの活用、放課後等の補充学習の設定するなどして基礎学力の定着を目指す。また、「鷹南スタンダードⅡ」を定着させ、保護者と連携して学習習慣を育てる。教員の指導力の向上のため校内研修や学園研修の充実を図る。	健全 ①小・小、小・中の教職員の情報交換や児童生徒の交流活動等の実態を踏まえ、児童・生徒の健全育成に生かす。 ②CS熟議や鷹南っ子ジャンプアッププランの具現化を図りながら、CS委員会と協働して目指す学園生像に迫る活動を推進する。保護者・地域への働きかけを強化し、三者一体となり、児童・生徒の健全育成をめざす。小学校と中学校の生徒指導・教育支援等に関わる情報交換を行い、いじめ・不登校の減少を進める。	
成果		課題と改善方策	
学力 ①1学期は各校の重点教科、2学期は道徳で全ての担任が観察授業を行った。重点教科の授業については、校内研究でも取り組み、全学年で研究授業を行いお互いに見合うことで指導力向上に役立った。また、鷹南スタンダードⅡに沿った授業展開を全学級で心がけ、すべての児童がわかりやすい授業を目指した。 ②放課後の補充的な学習を全学年で実施し、授業に遅れがちな児童への補習を行った。みたか地域未来塾との連携では、学生や地域の方が補助に入りよりきめ細かい指導が展開できた。		学力 ①引き続き授業改善への取り組みを継続していく。OJTを活用して、主任教諭によるミニ研修を実施し、若手教員の指導力向上を進める。 ②自分から宿題をするのみならず、自ら課題設定をしたりまとめかたを工夫したりするなど、家庭学習の確かな定着が課題である。そのために、CS委員会とも連携し、各家庭に家庭学習の定着を呼び掛けるとともに、みたか地域未来塾の運営を学校から地域へ移行していくことが課題である。	
健全育成 ①鷹南スタンダードに関するアンケート結果を見ると、各学年ともに90%前後の達成率で、普段から意識して決まりを尊重し、実際に行動できているととらえられる。 ②CS委員会を中心とした取組みが定着してきている。「学校が楽しい」という評価も90%を超え、自己肯定感が高まっている。また、「いじめは絶対にしてはいけない」とについても90%を超え、児童が意識して生活していることがうかがえる。		健全育成 ①善い行いが定着しにくい児童もいるのが実情でもあり、気を抜くことなく引き続き全校体制で取り組んでいくことが大切である。教員の意識を一層統一し一丸となって取り組んでいく。 ②今までの取り組みを継続して日ごろから成功体験を積み重ねるとともに、児童が抱える本質に目を向け、より細かい児童理解を徹底することが課題である。そのために教員が一人で問題を抱えずチーム鷹南で活動していく体制を継続することとそのため時間を確保するなどしていく必要がある。	

検証項目	(5) コミュニティ・スクールの運営 <input type="radio"/> コミュニティ・スクール委員会の組織・運営 <input type="radio"/> 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 <input type="radio"/> 学校と保護者、地域住民との連携・交流 <input type="radio"/> その他	
目標	①コミュニティ・スクール(CS)委員会の運営を持続可能にする体制作りを進める。 ②「鷹南っ子生きる力育みプログラム」の活動を持続可能にする体制作りを進める。	
取組	①CS各委員の役割が継承できるよう、委員・役員の交代を進める。各部の担当管理職を決め協働することによって持続可能な体制作りを進める。 ②「スポーツメンタルトレーニング」、「異文化体験」、「漢字検定」等については実行スタッフを募集するなどして、実施体制作りを強化していく。CS委員会と連携し家庭学習の定着やいじめをなくす熟議などの取り組みを推進し、児童会・生徒会との連携を図る。	
成果		課題と改善方策
①仕事内容の精選化と行事ごとに分担を決めるなど効率化を図った。 ②鷹南コンサートにおいては、合唱団の保護者に当日の準備等を依頼し参加していただいた。 子ども熟議において「防災」について取り組みをした。 漢字検定には昨年度より参加者が多くなった。 スポーツメントレは5・6年生対象に年3回開催した。		①CSによる行事の精選による持続可能な運営のため様々な機会を利用してCS委員会の周知を図る。 ②家庭学習の定着が進んでいないため、CS委員会と連携し啓発活動を行う。 次年度も引き続きスポーツメントレを5・6年生で実施し、「長縄大会」「運動会」「学習発表会発表の部」前に実施する。 子ども熟議は10月に実施する。
<p style="text-align: center;">平成28年度 鷹南学園の評価・検証結果のまとめ</p>		
(1) から (5) の検証 結果を踏まえ て	1 「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと ①CSによる熟議や児童会・生徒会の取組により、CSによる学園評価アンケートにおいて「いじめは絶対にしない」という問いに95%以上の児童・生徒ができていますと、肯定的な回答をしている。全国学力調査意識調査においても「どんな理由でもいじめはいけなと思うか」との問いに、98%の児童・生徒が肯定的な回答をしている。いじめに対する意識が向上した。 ②中学校全国学力調査意識調査において「人の役にたつ人間になりたい」という問いに対して95%の生徒が肯定的な回答をしている。これは都・全国の平均値より高く、三鷹市が進める「人間力・社会力」の向上において重要なファクターと捉える。 ③問題行動が減少した。	
2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること		
①家庭学習の定着と学校からの働きかけ・みたか地域未来塾の定着 ②特別の教科道徳の推進(学園研究で取り組む) ③継続していじめに対する取り組みを実施 ④不登校やいじめの早期発見・早期対応 ⑤教育支援の推進(小学校において校内通級教室の実施) ⑥授業改善と新学習指導要領の対応		
3 「2」の重点課題を解決するための改善策		
①家庭学習の習慣化が進んでいないため、地域未来塾やSSSによる放課後学習教室を活用して宿題に取り組む習慣化を図る。 ②特別の教科道徳を実施するため、学園研究会で研究授業や研修会を実施する。 ③継続していじめに対するアンケート調査や個人面談の実施をする。 ④不登校やいじめの早期発見のためQU調査を継続実施する。 ⑤教育支援の理解と手法を深める研修会や定期的な支援委員会を実施する。 ⑥中学校では、授業改善のための生徒による授業評価の実施と新学習指導要領に基づいたカリキュラムの検討・改訂。UDを生かした授業づくりの推進。		